

2021 年度 自己点検・評価報告書

理工学部評価分科会

2022 年 3 月

基準 1 理念・目的

- ・ 学部・研究科の目的を適切に設定しているか。
- ・ 学部・研究科の目的を学則又はこれに準ずる規則等に適切に明示し、教職員及び学生に周知し、社会に対して公表しているか。

【1】2020 年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

特になし。

【2】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

全学の教育目標の見直しに伴い、学部の教育目標の見直しを検討する。

【3】2021 年度の方針・点検・評価と 2022 年度以降の方針

学部の教育目標の見直しを検討する。

学部の教育目標および 3 ポリシーに関する周知は未だ十分ではないので、新入生及び在学生に対する周知を含め検討する。

基準 4 教育課程・学習成果

- ・ 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。
- ・ 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。
- ・ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
- ・ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。
- ・ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。
- ・ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。
- ・ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020 年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

コメントはあったが改善点については特に無し。

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

- 1) 全学のDP見直しに伴い、学部のDPの見直しを検討する。
- 2) 学部の教育目標、DPの見直しに伴い、教育課程の再編を行い、学位課程にふさわしい体系的な授業科目を設置する。
- 3) 理工学部の履修要項の専門科目表にL0sの欄がなく（他学部はある）、履修時に意識することが困難との学生の声を受け、履修要項への反映を検討する。

【3】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

- 1) 現在、学部のDPを検討中。3月半には確定する予定。
- 2) 23年度カリキュラムでの実施に向け、教育課程の再編を継続審議中。各学科でWGを設置し、学位課程にふさわしい体系的な授業科目の設置ができるよう、大幅な見直しをしている。こちらは22年度も継続する。
- 3) 22年度の理工学部の履修要項の専門科目表にL0sの欄を設けた。
- 4) 3ポリシーに関する周知は未だ十分ではないので、新入生及び在学生に対する周知を含め検討する。

基準5 学生の受け入れ

- ・ 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。
- ・ 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。
- ・ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。
- ・ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

共生創造理工学科の受験者数が情報システム工学科に比べてやや低い傾向が続いている。受験生に向けた様々な広報活動や受験啓蒙活動を実施しているが、今後も続ける必要がある。

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

- 1) 指定校推薦についての基準（評定平均）の緩和を検討する。
- 2) PASCAL入試の導入による、理工学部の教育方針に合致した志願者の掘り起こしを検討する。
- 3) 創価高等学校、関西創価高等学校への共生理工学科の研究・教育についての広報強化策を検討する。
- 4) 海外からの留学生の募集強化を検討する。

5) 学部卒業生のネットワークを作り、志願者掘り起こしにつなげる方法を検討する。
など、短期・中期の入試改革を決定する。

【3】2021年度の取組みの点検・評価と2022年度以降の方針

- 1) 指定校推薦についての基準緩和を検討した。2022年度に決定予定。
- 2) 23年度からの理工学としてPASCAL入試の導入を決定し、入試概要をまとめた。
- 3) 創価高等学校、関西創価高等学校への共生理工学科の研究・教育についての広報強化策の一環として、関西創価高校で23年度から開始される「理数探求基礎」および「理数探求」授業のサポート実施を決定した。22年度から年に数回、関西校の教員と理工学部の担当教員で打ち合わせを持ち、準備を行う。23年度から本格的に運用を開始する。
- 4) 創価中学校、関西創価中学校から要望のあった「中学サイエンススクール（理科実験出張授業）」について、創価中学校では実施を開始した。関西創価中学校については実施の検討を開始した。
- 5) 海外からの留学生の募集強化策として、英語で履修できる理工学部の授業科目を増やした（特に低学年時の科目。23年度カリキュラムからの開始）。
- 6) 学部卒業生のネットワークを作り、志願者掘り起こしにつなげる方法の検討を開始した。22年度前半にはある程度方向性を決め、年度内に取組みを開始できるようにする。

基準6 教員・教員組織

- ・ 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。
- ・ 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。
- ・ 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。
- ・ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。
- ・ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取組みを行っているか。

【1】2020年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

特になし

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

- 1) 人事内規を整備する。
- 2) 学部 FD 委員会の定期的な開催による活動の立案と周知を行う。
同規模大学の理工学部で実施されている活動の調査など
- 3) TP 作成を役職者から開始する。
- 4) 23 年度カリキュラムから導入が予定されている、データサイエンス演習について、その授業内容、方針、実施方法などについて、意見交換会を開催する。

【3】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

- 1) 人事内規に関する検討会議を数回実施した。3 月中には決定予定。
- 2) 学部独自の FD の取り組みを引き続き検討し、実施していく予定。
- 3) TP 作成を役職者から開始した。22 年度からは対象教員を拡大して実施予定。

基準 7 学生支援

- ・ 学生支援に関する大学としての方針に基づき、学生支援の体制は整備されているか。また、学生支援は適切に行われているか。
- ・ 学生支援の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

【1】2020 年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

- ・ アドバイザー教員等の学生との懇談の持ち方についての検討が必要

【2】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

学部内で学年の垣根を越えた縦の繋がりを作る：1，2 年生合同でのコンタクト・グループの開催を軸に、学年の上下で人間関係を醸成できるシステムを構築する。

【3】2021 年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

コロナの感染拡大により、オンラインでコンタクト・グループを開催する必要があったため、1，2 年生合同でのコンタクト・グループの開催を一部導入できた。このような取り組みは今後も続ける必要がある。

基準9 社会連携・社会貢献

- ・ 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。

【1】2020年度の自己点検・評価および外部評価で課題となった事項

特になし

【2】2021年度の方針・改善計画（および中期的な改善計画）

特になし

【3】2021年度の方針の点検・評価と2022年度以降の方針

それぞれの授業においては、SDGsに関連する内容を取り扱っており、教員によっては大学レベルのSDGs関連行事に携わっている。また、研究科と連動して行なっている個別の研究や研究プロジェクトを通して、SDGsへの貢献や社会へ貢献していると考えている。しかし、SDGsについては、学部として一貫した取り組みはない。大学の方で、SDGs副専攻を用意しているので、それに合わせて理工学部としてもSDGsへの積極的な取り組みを検討して参りたい。